



「スポーツの秋」「行楽の秋」・・・。体を動かすことが気持ちの良い季節になりました。今年は、コロナの関係で例年通りに思いっきり体を動かすことができなくなっていますが、体や心の健康のためにコロナの感染には十分気をつけながらできることをしていきたいものです。子どもにとっての体験は、心や頭の栄養にもなります。ぜひ家にとどまっているばかりではなく、子どもと一緒に家から出て活動してみませんか。

子どもの非行について考える

『悪い仲間と一緒にいる』『夜、家に居ないことが多い』『飲酒・喫煙をしているようだ』等、子どものことが最近気になっている。親としてどう対応したら良いのでしょうか」等と相談を受けることがあります。

このように、親が子どもの変化に気づいた時には、すでに非行が進んでいて、立ち直りには時間がかかることが多いようです。子どもの変化に早く気づき、非行が進む前に防ぐことが大切です。

小学生の高学年から中学生、高校生の時期は、「思春期」と言われ、ある意味、危険な時期です。この時期の子どもは、親に反抗してみたり、悪い子を見てカッコいいなど思ったりする時期です。おそらくこれを読んでおられるみなさんも、思春期の時のことを思い出してみられたら、このような子どもの気持ちもお分かりになることでしょう。子どもの体の中には、エネルギーがたくさん溜まっています。このエネルギーを非行に使うことがないよう、文化・芸術・スポーツに打ち込むなどして、上手に使わせることが大切なのです。

非行に走った子は、自分が悪いことをしているのはわかっています。なのに、なぜ悪ぶるのでしょうか。そこには、親に対して「自分のほうを向いてほしい」「自分のことをもっと分かってほしい」という思いを伝えているのです。親としては、その気持ちを理解し、思いを聞いてやることが大切です。親が自分のことを「わかってきている」「信頼されている」という思いがあれば、親を悲しませることをすることはありません。「こんなことをしていたら、親が悲しむ」という思いが、頭をよぎったら悪いことはしないのです。子どもが非行に走らないようにする一番大切なことは、このように、親と子がつながっていることなのです。

親と子がつながるために、日頃から親子の会話を大切にしましょう。お父さんは、「忙しいから子どものことはお母さんに任せている」ではいけないのです。一日に5分でもいいのです。子どもと会話をしましょう。食事の時でも会話することで子どもとの絆が深まります。そのような家庭から、非行少年・非行少女は生まれません。

ある本にこのような言葉が載っていました。どう思われるでしょうか？

父親の権威を立てないために、どれぐらゐの家庭で不幸が起こっていることか。

「お父さんは偉いんだ」と母親が子どもたちに少しでも仰ぎ見させる癖をつけておくと、いざ非行に走る段に、父親がガンといえは終わる。

「お父さんは駄目な人。あんな真似をしては駄目」などといっていたら、本当に駄目になる。

渡部昇一

(文責＝青少年育成センター指導員藤村)